

2030に向けたESDの推進



文部科学省国際統括官付
日本ユネスコ国内委員会事務局



文部科学省

MEXT

MINISTRY OF EDUCATION,
CULTURE, SPORTS,

SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN

目次

1. 国際的な動向 P 2
2. 国内の取り組み P 5
・国内実施計画 P 5
・学校教育 P 6
・社会教育 P 12
・その他 P 14

ESDに関する国際的な動き

1. 「国連ESDの10年」(UNDESD) (United Nations Decade of Education for Sustainable Development)

- 2002年 ヨハネスブルクサミットで我が国が提案
- 2002年 国連決議(第57回総会)
 - ・ 2005~2014年の10年 ・ ユネスコを主導機関に指名
- 2005年 DESD国際実施計画をユネスコにて策定
- 2009年 ESD世界会議(ボン) ・ ボン宣言の採択
- 2014年 ESDに関するユネスコ世界会議(愛知県名古屋市/岡山市)
 - ・ あいち・なごや宣言の採択 ・ ユネスコ/日本ESD賞の創設

2. 「ESDに関するグローバル・アクション・プログラム(GAP)」

- 2013年 第37回ユネスコ総会にて採択
- 2014年 第69回国連総会にて採択
- 2015年~2019年 グローバル・アクション・プログラム(GAP)に基づいたESDの推進

3. ESD:SDGs実現に向けて(ESD for 2030)

- 2018年 第204回ユネスコ執行委員会にて「2019年以降のESD」にかかる決議
ESDの将来に関する加盟国協議(バンコク) ・ post-GAP枠組みの策定
- 2019年 第206回ユネスコ執行委員会にてpost-GAP枠組みの草案提出
第40回ユネスコ総会にて採択、第74回国連総会にて承認
- 2021年 ESD世界会議(オンライン開催) ・ ベルリン宣言の採択
- 2020~2030年 ESD for 2030に基づいたESDの推進

**ESDは、持続可能な社会の創り手の育成を通じ、
SDGsのすべてのゴールの実現に寄与。**



第41回ユネスコ総会（教育分野）

- ユネスコ(国際連合教育科学文化機関.)は、諸国民の教育、科学、文化の協力と交流を通じて、国際平和と人類の福祉の促進を目的とした国際連合の専門機関。
- 創設:1946年11月4日（日本加盟:1951年7月2日）
- 加盟国・地域数:193カ国(2020年2月現在)
- 2年に一度、総会を開催。



第41回 ユネスコ総会

1. 開催日時

日程：令和3年11月9日（火）～11月24日（水）

場所：ユネスコ本部（パリ）

2. 教育分野の動き

【総会】

(1)ESD for 2030フレームワークのローンチ

(2)SDG4ー教育2030

【サイドイベント】

(3)「教育の未来」グローバルレポート公表イベント

(4)グローバル教育会合(GEM)ハイレベル会合：パリ宣言の採択

(5)ユネスコ／日本ESD賞



ユネスコ／日本ESD賞（2021年表彰式）

○表彰式の様子

表彰式は日本語同時通訳付きで行われました。是非、ご確認ください！
<https://www.youtube.com/watch?v=XI4iLtbkCwQ>



受賞者の写真



日本政府代表者からの祝辞



受賞者はオンラインで参加しました

○受賞機関／団体

54か国及び8機関から113件の推薦があり、次の3機関／団体が受賞しました。

World Vision Ghana ガーナ

持続可能性の核となる能力である批判的思考に焦点を当てた識字能力の開発に対する総合的アプローチを促進する「Unlock Literacy Project (UL)」を運営。

Media Development Center of the Birzeit University パレスチナ

実用的な実践的学習及び対話を通じた訓練研修によるメディア及び情報リテラシーの開発を目指している。

Kusi Kawsay School ペルー

現代社会における地球規模課題への対応を模索しつつ、人々に尊厳という力を与える土着及び地元の文化や価値観、コミュニティ構成員間の幸福感など、多くのESDの主要な要素に取り組んでいる。

「持続可能な開発のための教育(ESD)」

- ◆ ESDとは: 持続可能な社会の創り手を育むため、現代社会における地球規模の諸課題を自らに関わる問題として主体的に捉え、その解決に向け自分で考え、行動する力を身に付けるとともに、新たな価値観や行動等の変容をもたらすための教育。国際理解、環境、文化多様性、人権、平和等の個別分野を持続可能な開発の観点から統合させ、分野横断的に行われる。





- オールジャパンで我が国のESDを推進。
- 「ESD for 2030」の理念を踏まえ、ESDがSDGs達成への貢献に資するという考え方を初めて明確化。
- ジェンダー平等、2050年カーボンニュートラル、AI・DXの推進等を踏まえつつ持続可能な社会の創り手を育成。

1. ESDを実践するために多様なステークホルダーを巻き込む

- 政府は「ユネスコ未来共創プラットフォーム」や「ESD推進ネットワーク」等を活用し、自治体、NGO/NPO、企業、研究・教育機関等をつなぐ重層的なネットワークを強化。
- 国内のみならず国際的にも情報発信を強化し、連携を図る。

2. ステークホルダーごとの具体的な取組を5つの優先行動分野別に記載



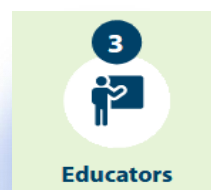
1. 政策の推進

- ・SDGs 関連政策へのESDの反映
- ・教育政策へのESDの位置付け
- ・地球規模課題に係る施策におけるESDの実施等について記載。



2. 学習環境の変革

- ・学習指導要領に基づくESDの実施
- ・ICT化を通じた教育環境の充実
- ・機関包括型アプローチの推進に向けたネットワークの形成・強化等について記載。



3. 教育者の能力構築

- ・教員等に対する研修等
- ・ESD推進の手引の作成・活用
- ・各機関においてESDを実践する者の育成等について記載。



4. ユースのエンパワーメントと参加の奨励

- ・ユース同士のコミュニティづくり
- ・国際的な議論にユースが参加できる環境づくり
- ・各機関においてESDを実践する者の育成等について記載。



5. 地域レベルでの活動の促進

- ・ESDによるローカルSDGsの推進
- ・全国的なESD支援のためのネットワーク機能の発揮等について記載。

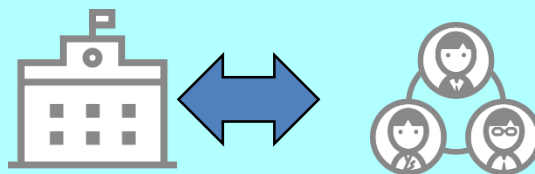
新学習指導要領や第3期教育振興基本計画における記載

ESDは、小学校から大学に至るまでのすべての教育段階において推進されており、新学習指導要領や第3期教育振興基本計画にも「持続可能な社会の創り手の育成」が掲げられている。



「持続可能な開発のための教育(ESD)推進の手引き」を令和3年5月に改訂。

- ESD実践のポイントとして、**ESD実践のためのカリキュラム・デザイン**や、**学校内外での連携方法の促進**について、内容を充実。
- 各学校等においてESDの実践が進むよう、**具体的な取組事例**の記載を充実



環境

福島県 只見町立只見中学校

- ・山間部で海洋教育
- ・海、川、山のつながりを学ぶ。
- ・課題解決の取組を学校から、地域に広げている
- **広い視野とつながりを思考**する力。



4 質の高い教育をみんなに



まちづくり

福岡県 大牟田市立中友小学校

- ・「子ども民生委員」が高齢者の見守りを行う。
- ・地域課題を子ども主体で解決。
- 子供の街づくり一員としての意識醸成。



防災

はしかみ

宮城県 気仙沼市立階上中学校

- ・気仙沼市総合防災訓練に参加。
- ・近隣小学校への啓発活動等を実施。
- 防災リーダーとしての意識醸成。街づくりの一員としての意識醸成。



その他

長野県 山ノ内町立南小学校

- ユネスコエコパークのエリアとして、学年横断で共通のテーマを「水」として、学習に取り組む。
- 教員のESDに対する意識改革と学校の教員間の連携協力の推進。



ESD推進拠点としてのユネスコスクール

ユネスコスクールとは？

- ・ ユネスコが加盟承認を行う、ユネスコの理想を実現するため、平和や国際的な連携を実践する学校。
- ・ 現在、世界182の国・地域で11,000校以上。
- ・ 日本国内の加盟校数は1,120校(2019年11月現在)で**世界最多**。
- ・ 来年度から、レビューと候補校制度を開始。

日本全国: 1,120校

幼稚園21, 小学校554, 中学校279,
中高一貫校等60, 高校156, 大学5,
高等専門学校1, 特別支援学校12, その他32

近畿地区: 141校

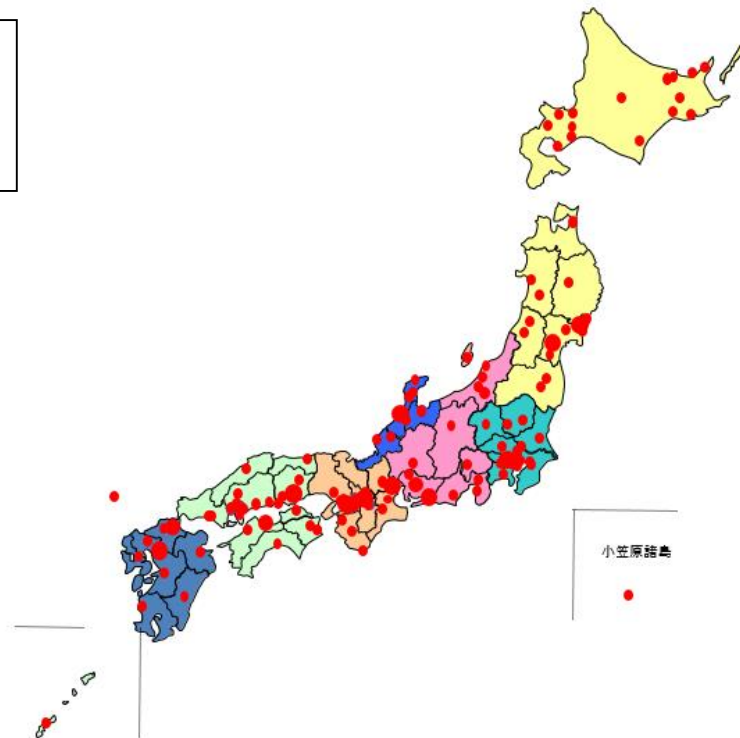
幼稚園5, 小学校52, 中学校26,
中高一貫校等13, 高校33, 大学2, その他10

中国・四国地区: 178校

幼稚園1, 小学校92, 中学校39,
中高一貫校等9, 高校32,
特別支援学校2, その他3

九州地区: 69校

小学校32, 中学校22,
高校12, 特別支援学校1, その他2



北海道・東北地区: 162校

幼稚園8, 小学校77, 中学校42,
中高一貫校等4, 高校25, 大学1,
特別支援学校1, その他4

北陸地区: 119校

小学校84, 中学校32,
高校2, 高等専門学校1

関東地区: 173校

幼稚園2, 小学校75, 中学校38,
中高一貫校等26, 高校22,
特別支援学校2, 大学1, その他7

中部地区: 278校

幼稚園5, 小学校142, 中学校80,
中高一貫校等8, 高校30, 大学1,
特別支援学校6, その他6

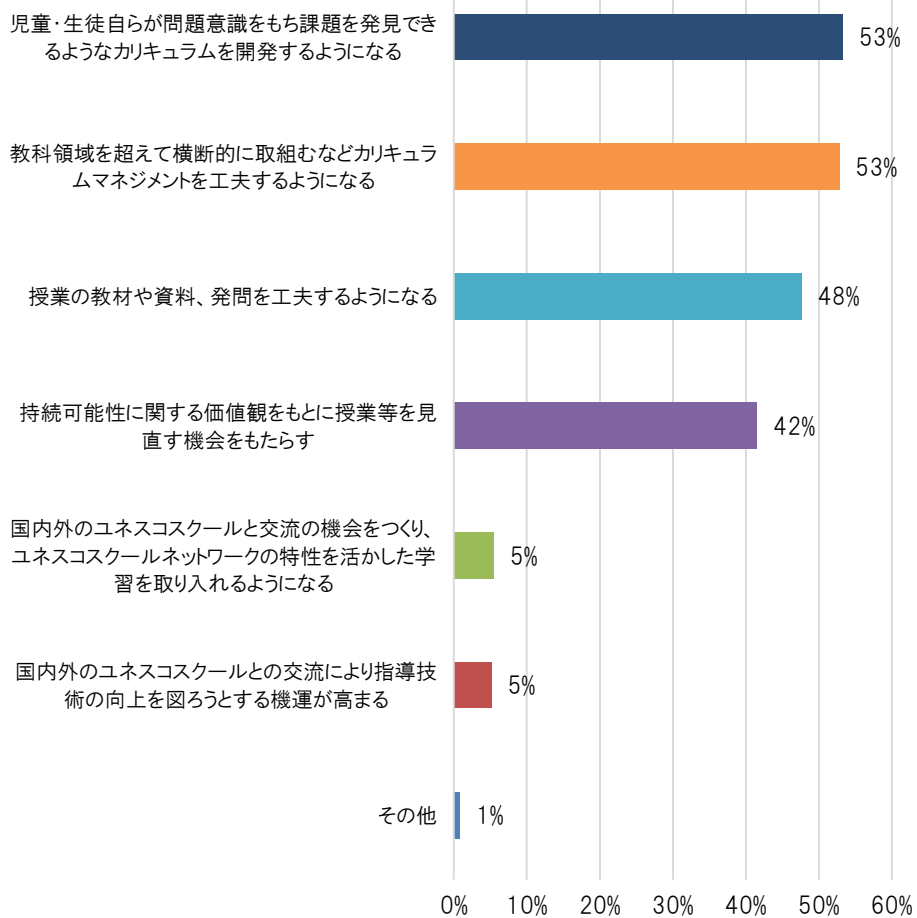
参考: ユネスコスクール数の推移 (単位: 校)

1956年度	1960年度	1965年度	1970年度	1980年度	2000年度	2005年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
6	27	22	25	21	20	16	24	78	152	277	367	550	705	913	939	1008	1033	1116	1120

2020年度ユネスコスクール活動調査結果（抜粋）

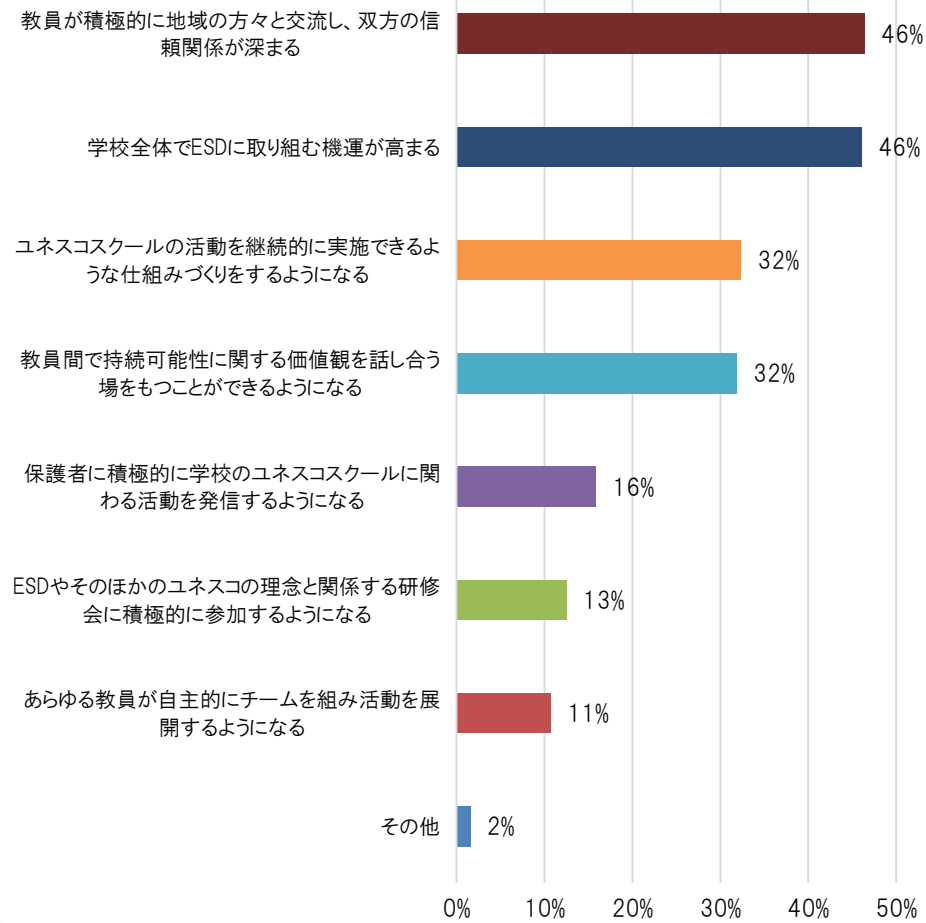
ユネスコスクールに加盟、ESDを実践したことによる教員間の協力強化

○ ユネスコスクールの教育活動による教員のカリキュラム・教授法の変化



（参考：2. ② 質問4（1））〔N=623（※複数回答可）〕

○ ユネスコスクールの教育活動による教員の学校運営の変化



（参考：2. ② 質問4(2)）〔N=624（※複数回答可）〕

ユネスコスクール事務局による支援

委託先：公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター（ACCU）

○ユネスコスクール公式ウェブサイトを通じた情報発信

(<http://www.unesco-school.mext.go.jp/>)

- ✓ ユネスコ及び日本ユネスコ国内委員会からの情報提供
- ✓ ユネスコスクールに関するイベント情報の発信（国際デーカレンダーの提供含む）
- ✓ ユネスコスクール年次報告書の収集及びアンケート調査の実施、調査結果の公表
- ✓ ユネスコスクールの活動事例、教材の提供
- ✓ 加盟校及び関連団体に関する情報提供等

○研修会等の開催、講師派遣、学校間交流マッチング支援 等



国内のニーズ

- ◆ **新学習指導要領、持続可能な社会の創り手の育成が学校に求められる(2020年度から実施)**
- ◆ 教育振興基本計画やSDGs実施指針改定版(令和元年12月)にSDGs実現のための教育(ESD)の重要性が明記。
- ◆ コロナ禍、大規模災害等によって、**持続可能な社会の担い手育成の必要が高まっている。**
- ◆ 企業にSDGsへの取り組みが求められており、即戦力となるSDGs人材の需要増。

教育を通じたSDGsの達成!



国際的なニーズ

- ◆ コロナ禍を受けた持続可能な社会づくりに対する関心、議論の高まり。
- ◆ 2019年国連総会及びユネスコ総会における、ESDが全てのSDGs達成に貢献することを掲げた「**ESD for 2030**」の採択と、**我が国がユネスコと共に主導するESDの一層の推進**
- ◆ 2017年国連決議「**ESDはすべてのSDGs実現の鍵である。**」

事業の柱

- (1) **カリキュラム等開発・実践**
- (2) **教師教育の推進**
- (3) **教育(学習)効果の評価と普及**
- (4) **ユース世代の活動の推進**

事業趣旨

- SDGs実現の視点を組み込んだカリキュラム、教材、地域プロジェクト等の開発や教育実践を行う。
- SDGs実現の中核的な担い手となる教師の資質・能力の向上を図る。
- ESDによる教育(学習)効果や学習者の変容を測る評価手法を開発・実践し、その普及を図る。
- SDGs実現に向けて、ユース世代によるESDの取組を加速させる。

事業内容(例)

- SDGs実現の視点を組み込んだカリキュラム、教材、プロジェクト等の開発や実施、及びその成果の全国的な発信。
- SDGsと地域課題解決・地方創生をテーマとする、民間企業と連携したプロジェクト・ベースド・ラーニング(PBL)。
- 教育委員会や大学等と連携した、学校教師や教員養成課程学生等を対象としたESD研修の実施、及びその成果の発信。
- 教育委員会や大学等に対するESDの普及啓発、指導助言、ネットワーク構築等。
- 評価手法の開発と教育現場での実践(評価)、及び評価手法の汎用性の向上と教育関係者への普及。
- ユース世代によるSDGs実現に向けた自主的・独創的な活動を支援・普及(能力向上、ネットワーク構築等)

事業名

タカラトミー：「人生ゲーム」を活用したSDGs担い手育成事業～みんなでつくるSDGs人生ゲーム～ 2020年から2年間実施

概要

(1) 地域の課題に対応したSDGs学習教材の開発。SDGsを題材とした「人生ゲーム」を教材として学校で活用。各学校がオリジナル人生ゲームを作ることができる。

(2) 日本全国の小中学生3000人を対象に実施。ユネスコスクールネットワーク参加小・中学校からの募集(令和2年度には以下の地域で実施)

北海道/宮城県/群馬県/千葉県/東京都/神奈川県/愛知県/奈良県/大阪府/岡山県/広島県/福岡県

(3) 連携先:

- 公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター
- **ESD活動支援センター**
- 各自治体の教育委員会又は自治体の校長会



時	日	年	月	日
今日の授業で感じたこと				
自分で行けること				
できたかな?				
行前で行けたこと				
行前で行けなかったことや感じたこと				

企業にとって期待できる効果

- ◆ 地域との連携強化
- ◆ 企業の好感度アップ
- ◆ 広報の機会増 (地元メディア、自治体HP、学校PTA誌など)
- ◆ ホームページへのアクセス数増 (前年比: 150%増)
- ◆ 会社の社会貢献部以外の社員の参画を通じたSDGsへの意識向上
- ◆ 新人研修の場の提供

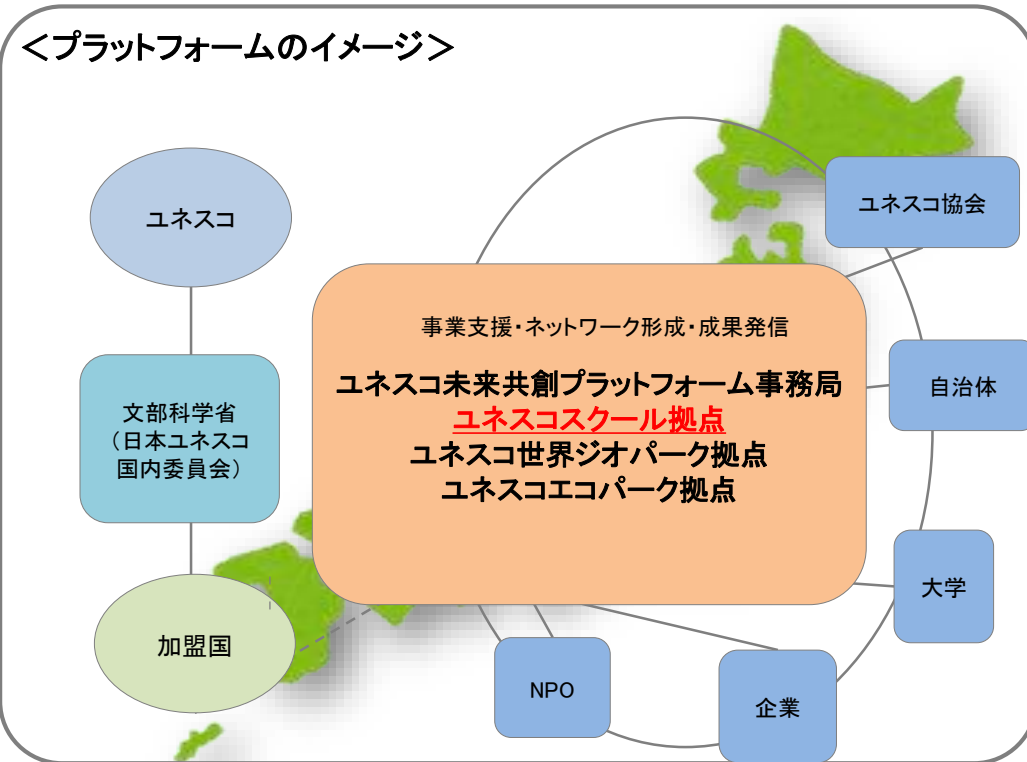


ユネスコ未来共創プラットフォーム

・国内ユネスコ活動ネットワーク拠点の戦略的整備と先進的なユネスコ活動の海外展開を一体的に推進



<プラットフォームのイメージ>



ユネスコ未来共創プラットフォームポータルサイト
・ユネスコスクールはじめ、他分野にわたるユネスコ活動の情報発信の一元化



期待される効果

(i) 急速な社会変化に即応した恒常的な情報発信、

(ii) 民間団体との連携強化、

(iii) 国内のユネスコ活動と国際協力の成果の往還を通じて、我が国のユネスコ活動が我が国やユネスコの優先課題の解決を通じて持続可能な社会の構築に貢献

ご清聴ありがとうございました。

日本ユネスコ国内委員会

Japanese National Commission for UNESCO

3-2-2 Kasumigaseki, Chiyoda-ku, TOKYO, JAPAN, 100-8959

<http://www.mext.go.jp/unesco/>

e-mail:jpnatcom@mext.go.jp

